

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300550		
法人名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム平野のどかの里		
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野字妙見前1番地の1		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、学校の廃校跡地を改築した木造建ての造りとなっている。利用者一人ひとりの居室が広くゆったりできる空間があり木のぬくもりが温かく感じる。廊下は長く毎日の生活がリハビリとなりほとんどの方の筋力強化に貢献している。また、事業所の階下や運動場、体育館は地域の方が集う場である。月単位のイベントがある。事業所の夏祭りは、毎年コミュニティと合同開催している。地域の中で地域の方に支え守られながら生活させていただいている。地域の方から新鮮な食材の差し入れがあり、季節感を把握することができる。旬の野菜をいただいていることが利用者の体調安定にも繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、のどかな山間の集落にあり、旧小学校舎の廃校跡地を改修した木造建築の二階に位置している。利用者の居室や共用空間は、教室を改築した広くゆったりした間取りとなっている。日当たりも良く、木のぬくもりが感じられる、居心地のよい環境を整備している。長く続く廊下は、毎日の生活動線がリハビリを兼ね、筋力低下予防に繋がっている。事業所の階下や運動場、体育館は、地元住民が集う場として活用されており、利用者や職員は、草抜きや運動会等に参加したり、コミュニティと合同で夏祭りを開催している。顔馴染みの近隣住民から、新鮮な季節の食材が差し入れされるなど、地域との交流が継続して行われている。管理者と職員は、“利用者にとっての居場所作り”を理念に掲げ、利用者とともに調理をしたり、楽しく食卓を囲んだり、穏やかで家庭的な安らぎの場を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時には理念を伝え理解してもらえよう努めている。申し送り時や日々の会話で理念に触れ 日常のケアに努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念が作られている。管理者と職員は、その理念を共有し、利用者との関わりの中かで日ごろのケア実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域広報を通じて コミュニティー推進協議会より周知された地域の行事には全員参加されている。又、地域の方と一緒に年4回校庭の草抜きにも参加。施設の夏祭りには地域全戸に広報し チケット引換券も配布している。	利用者と職員は、天候のいい日には近隣への散歩や買い物に出かけ、馴染みの方と挨拶を交わしている。近隣住民から季節の野菜の差し入れがあったり、地域行事にも積極的に参加するなど、地域交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市町村が介護資源型認知症サポーター要請事業をおこなっている。実習事業所として受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	問題があるときは、会議に提案し御意見を頂いている。金融広報アドバイザーをお呼びして地域の方にも声かけし皆で勉強会もした。	運営推進会議では、事業所の取り組みや活動状況、現状報告などが行われている。参加者と活発な意見交換をし、事業所運営や地域活動の展開に努めている。職員は、会議で出された意見を共有し、ケアの実践に反映している。	事業所が地域密着型サービスとしての役割を発揮しつつ、地域の理解と支援を得るためにも、運営推進会議は2か月に1回は開催されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者の空き情報や入居希望情報 研修情報等提供して頂いている。運営推進会議には参加くださる。事業所の現状を把握されておられる確かなアドバイスも頂いている。又、気安く相談できる関係を構築している。	管理者は、日ごろから町担当職員を訪問したり、電話で相談するなど、連携の強化に努めている。現場の実情や活動状況を伝え、問題解決に向けてアドバイスを得ている。事業所内の会議にも参加してもらい、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	包括支援センターより、那賀町高齢者虐待対応手引きを配布して頂いている。身体拘束排除宣言も玄関に貼り周知 玄関の施錠についても職員が多い時間帯に安全を考えて対応し努力している	全職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者への対応も、全職員で話しあい、安全面に配慮している。声かけや見守りを強化することで、施錠せず抑圧のない自由で安心した暮らしが送れるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットにより情報提供している。毎日入浴できる体制を構築しており、介助者も毎日交代している。入浴時身体や心理的表情的の観察も行ない虐待の危険を早期に見つけ関係機関と連携できるシステムも構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターより、年1回高齢者安全生活検討会があり、そこで成年後見制度日常生活自立支援事業について学ぶ機会がある。ネットワークも出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明している。今後、起こりうる重度化やターミナルについても説明している。納得して頂いた上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に情報提供をしている。運営推進会時意見を出しやすい雰囲気を作るよう心がけている。出された意見 要望は職員間で話し合い、統一したケアに繋げている。	職員は、家族の来訪時や電話での対応時等、気軽に意見や要望が言えるよう、雰囲気づくりに配慮している。出された意見等は職員間や運営推進会議で話しあい、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、コミュニケーションをはかるよう心がけている。職員に問いかけたり聞き出したりしながら意見や要望等を聞きだすよう心がけている。解決できないときは上司に相談し解決に向け取り組んでいる。	管理者は、日ごろのかかわりやコミュニケーションから、職員一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。出された提案や気づきは、職員間で話しあったうえで代表者に相談し、解決に向けて取り組み、職員の働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の福利厚生の充実に向けてソウエルクラブに加入している。昇給 退職制度 職員はもとよりパート職員さんにも有給制度ある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が夕方が多いため参加者が少ない。新聞やテレビの情報により自己研鑽に努めている。職員のやる気により個人差はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは機会がなく出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったときには、面接するようにしている。ご本人の心身の状態や思いをお聞きしご本人に受け入れていただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のご苦勞や今までのサービスの利用状況等これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を傾聴し落ち着いて頂いて詳細な相談につなげるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、柔軟な対応を行なうように努め空室がある場合はショートステイで対応。場合によっては、他の事業所のサービスに繋げる等の対応も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安、喜び等を把握するように努め、日頃の暮らしの中で、行事食を通じて意味その地域にまつわる風習、習慣等教えていただきながら共に支える関係づくりの構築を心がけ生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人や家族の思いに寄り添って、日頃の暮らしの出来事や気づき等情報を共有するように努めている。職員は、本人と共に支える為に家族と同じような思いで支援している事を家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のイベントは多くあり、積極的に参加している。なじみの知人や友人と会う機会も頻繁にある。また、面会に来てくださる方も多い。外出やドライブする事でも継続的にも交流できている。	事業所は、旧小学校舎を改築しており、近隣周辺の友人や知人が気軽に来訪している。体育館や運動場では地域行事が盛んに開催され、利用者も参加して馴染みの場所での交友関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係性の情報を共有できるように努めている。又、心身状態をや気分感情等により変化する事もある為、注意深く見守るようにしている。日常生活でも個人個人でお互いいたわりあいながら生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方より今も差し入れがある。又、定期的に青果市場から野菜を送ってくださる家族の方もおいで。お墓参りの時期に施設を訪れ交流して下さっている。時折困っている方の話をせられ助言を求められることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし会話を通して意向の把握に努めている。家族や関係者からも情報を得ている。関係者全員で本人にとってよりよい暮らしについて検討している。	職員は、日ごろから利用者への声かけや対応に配慮し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意志の疎通が困難な利用者にも寄り添い、本人にとってよりよい暮らしについて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞いたり家族や知人等が面会にいらした時にお話の中から少しずつお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活面や心理面の視点、出来ないことより出来ることに着目し、利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞いて介護計画に反映している。アセスメントも含め、全職員で意見交換やカンファレンスを行っている。	職員は、日常生活のかかわりのなかで把握した利用者の思いや、身体状況を踏まえ、家族の意向を反映させた介護計画を作成している。定期的なカンファレンスで職員の気づきや意見をモニタリングし、計画の見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人のファイルに食事・水分摂取量や排泄等の身体情報、日頃の暮らしの様子、本人の発す言葉 エピソード等を記録し、全職員が確認できるようにしている。又、変化があれば計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、体調不調時の通院 夜間等は柔軟な対応を行っている。家族の協力を得て、利用者が満足していただけよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けることが出来るよう支援している。地域のボランティアや民生委員 婦人会 消防署 警察所員等の来訪がある。様々な行事にも参加しているので交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力機関への通院は職員 専門医療機関の受診はご家族の協力を得ている。必要に応じて医師やご家族と相談し適切な医療の受診を支援している。	入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を確認し、継続して適切な医療が受けられるよう支援している。協力機関への通院には職員が付き添い、専門医療機関への受診は家族の協力を得て、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な受診や入院時の協力医療機関の看護師から、日頃の健康管理や医療面で助言頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的受診や入院時の協力医療機関より必要時には早期に退院できるよう治療方針の説明を家族 本人 施設にあり積極的に支援している。又、日頃の健康管理について助言等を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアあり方や事業者の対応について医師や職員 家族 関係機関で検討している。契約時に本人や家族と話し合い意向を確認している。	事業所は、契約時に重度化した場合や終末期の対応について、家族や本人に事業所ができることを明確に説明し、理解を得ている。本人の状態変化に応じて家族の意向を踏まえ、医療関係者や全職員で話しあい、情報を共有し方針が検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新規採用者には、急変時の対応について研修に行き勉強している。年1回 消防署の救急救命士に依頼し訓練受ける機会も設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員や消防管理業者の協力を得て訓練している。	年に2回、消防署の協力のもと、避難防災訓練が行われている。消防安全管理業者や地元消防団の協力を得て、地域住民も参加して全職員で自主防災訓練に取り組んでいる。夜間想定での訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、トイレ誘導時の声かけやケアにおいて配慮している。目立たずさりげない対応や日常的な言葉かけは特に気をつけている。職員は利用者のプライバシーについても守秘義務の徹底を図っている。	職員は、一人ひとりの人格を尊重し、利用者の気持ちに寄り添い、優しい声かけやさりげない対応を心がけ、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立は、利用者が希望するメニューを聞いて調理する機会を多く設けている。又、毎日着る衣類についても自己決定できるように言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩時 利用者の状態や思いに配慮した上で一人一人のペースを把握し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活全般において自己決定できるような支援をしている。朝の着替え外出時の食事はご自身に決めて頂いている。悩んでおられる時は、共に考え自己決定できるような言葉かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立 準備から片付けまで皆で話しながらしている。お一人お一人力に応じての役割がある事で生き生きとされている。食事も職員と一緒に味わっている。旬の材料を使った料理には食材で話題が盛り上がる	献立は、職員間で話しあったり、利用者の要望を取り入れたりし作成している。近隣の方から頂いた新鮮な季節の野菜を使った調理が、食卓に上ることもある。利用者は、窓から見える景色を眺め、和やかな雰囲気の中、職員と一緒に食事を楽しんでいる。一人ひとりの能力に応じて、片付けなどを積極的に担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日 食事 水分摂取量等の状況をチェックし個別ファイルに記入して職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。夜間には義歯を洗浄して除菌を行い口腔内の清潔保持に努めている。歯科医からも口腔内の指導も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者1人1人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。尿量に応じてパットを使用している。日中は誘導する事で失禁が減らせている。トイレまでの距離が長いので誘導する事で筋力強化にもつながっている。	職員は、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりの状況に応じてさりげなく排泄誘導を行っている。尿意のある利用者は、日中自主的にトイレ移動しているが、生活動線が下肢筋力強化となり、排泄への自立にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を多く取り入れた献立にしている。散歩や家事活動等身体を動かす機会を多く設けている。又、排泄困難な方には一人一人に応じた下剤が処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日 順番を変えるなどして公平に対応している。全職員が体調を確認し心身 身体の早期発見(体の浮腫 打撲 皮膚疾患 痛み)に努めている。季節に応じて柚子湯や入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いている。	ほぼ毎日入浴支援が行われている。利用者全員の生活習慣や要望に応じて入浴の順番を変えたり、一人ひとりの体調管理をしつつ、身体保清に努めている。季節ごとに、柚子湯やしょうぶ湯等を取り入れ、入浴時間を楽しむ工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を送っていただく事で、1日の生活リズムを作っている。その日の出来事で安眠できなかった方には個別に休息をとって頂き危険のないよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをとる事で職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更があれば 個人ファイルに詳細に記入し口頭でも申し送りを行って職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に得意分野で力を発揮出来るような仕事をお願いしている。又、負担にならないように常に職員がカバーしている。お願いしたらいつも感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は毎日散歩 受診 買い物 遠足 ドライブ お参り 花見 喫茶店でのお茶 四季折々の行事にあわせ利用者の希望をお聞きしながら楽しみごとを支援している。	外出を希望する利用者が多く、一人ひとりの要望に応じて買い物やドライブ、喫茶店でのお茶や外食等に出かけている。また、四季折々の花見に出かけたり、地域の行事にも積極的に参加できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、事業所では金銭を預かっていない。ほしい物の買い物に関してはご自身が選び購入しているが、支払いは家族がされている。お金を持参しての買い物は利用者によっては、家族の理解が得られない方もお出する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日頃から、電話や手紙を出す支援はしている。面会に来てくださった方には年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春はさくら 冬は雪を見て食事している。食事づくりでは 四季折々の材料を用いて五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	共用空間は、部屋全体がガラス窓で覆われており、暖かな日差しが差し込むとともに、四季折々の景色が一望できる。室内にいながら季節を感じることができ、利用者はこたつで横になつてくつろいだり、職員と余暇を楽しみ、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や座敷の部屋 廊下の椅子 個室にはソファがある。気の合う利用者どうしで自身のお部屋を行ききされそこでお話されている方もお出する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には 利用者お一人おひとりの使い慣れたものを持ってこられている。日用品や編み針 大正琴等 化粧道具 夫の写真 自分の大切な物を持参されている。大切なものを気軽にもってきていただけるよう支援している	一人ひとりの居室は全室日当たりが良く、フローリングの清掃も行き届いている。利用者の馴染みの家具や品物が持ち込まれ、壁面には家族の写真や自慢の作品も飾られている。事業所は、利用者一人ひとりの楽しみを支援し、居心地のよい空間を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安 失敗等が生じた際には、職員間で話あっている。本人の力が 発揮でき不安なく過ごすことが出来るよう環境整備にも留意している。		